

新春対談

年頭にふさわしく、新理事長に就任された高橋和人理事長、そして飯塚喜一学長をお迎えして、同窓会としてお話を伺う機会を得た。大学の教育、研究、経営、同窓会との関係など、多岐にわたって熱のこもった対談が行われ、予定時間を大幅に超過するほどの密度の高い内容となった。

所信表明について

司会 本日はよろしくお願ひ致します。早速ですが、先日高橋理事長が全職員に対して行われた、所信表明演説での3本柱、教育、医療（臨床）、研究について伺います。

理事長 まず「教育」ですが、今後予想される学生の一般的な学力低下に対し、これを根本的に鍛え直して、社会のニーズに十分応え得る人材に育てあげるのが、我々大学の使命です。また、もう一つの大きな使命、すなわち「医療」については、地域の歯科医療のために立派な歯科医師を作る必要から、医療職を専任とし、そのために要する人件費の増大はやむを得ない、と考えています。「研究」で言えば、悪しき平等主義を排し、個人の能力重視、少なくとも研究者の義務である「科研費」を申請しないような研究者に対して、大学がバックアップするなどということは有り得ないし、成果の上がっているところには重点的に投資し、世界に通じる研究をこそ支援してゆきたい。まあ、これらが大まかな3本柱に対する私の考え方です。

司会 今のお話の関連で、学長先生にお伺いしたいのですが、本学の研究内容が、学会などでも他大学のものに比べ、やや劣るのでは、という評価に対してどうお考えでしょうか。

学長 すべての分野ではなく、あくまで平均的な意味で、と思いますが。

司会 何か対策のようなものは？

学長 先程のお話に出ました3本柱、しかし、実際にこれを一人ですべてこなす、しかも一流の水準で、というのは事実上不可能です。やはり、これらは基本的に分けるべきです。たとえば日本歯

科大学では、一部の臨床系の先生は講座が無くなり、自分の希望で臨床に集中しておられる。あるいは、学生への教育に関しても、昨今教員の情熱が徐々に薄れつつあるようですが、思い切って教育に専念していただけるようにすべきでしょう。

司会 多方面に力が分散され、研究などに割ける時間が少ない、とも言えるでしょうか？

会長 先週、日本歯科医学会が横浜で開催されましたが、同じ神奈川県内の鶴見歯科大学はかなり積極的に参加しておられたような印象があり、それに比べて本学はそうでもなかったか、と思います。対外的な働きかけ、という点が不足している感は否めません。臨床にせよ、研究にせよ、優れたものは多々あるわけで、それらを対外的にアピールし得る道筋を、今後示していただければ、と思います。



学長 現状は教員、医局員にとって気の毒な面もあります。共用試験のように、上から義務付けられる仕事が年々増加し、相当なエネルギーが殺がれます。特に協力的で有能な教員ほどその傾向が

あり、一方で非協力的な者との「差」が開くばかりです。

会長 他の大学も同じような条件であれば、やはり「姿勢」の問題もあろうかと思えます。今回我々にとって大変心強いのは、高橋理事長が研究、教育のプロであられることで、おおいに期待しています。

理事長 身の引き締まる思いです(笑)。振り返れば、私が現役の時代には、歯科基礎医学界総会を2回、手前味噌ながら解剖学会の総会などを、本学で開催したこともあります。だから「俺に付いて来い」という気概は今もある。たとえば解剖学会では、一般医科の中で最も弱い立場の歯科が、会頭として全体を仕切るためには、大変な努力とともに、それまで培った幅広い交友関係が必要となります。それは一人一人の研究者が築いてゆかねばならない。学会などに参加した際、最も大切なのはその後の懇親会です。そこでしか聞けない本音や裏話、そこから始まる人間関係が、イザと言う時威力を発揮する。研究のみならず、人格も磨かなければ尊敬はされません。若い人達には、その努力を惜しまぬよう、進言したい。



学長 懇親会のやり方にも工夫が必要です。口腔衛生学会でも年々若い人の参加が減ってきましたが、その理由はホテルが立派すぎて会費が高い、さらに偉い先生方の挨拶が延々続いてウンザリする、ということで、私が学会長の時行ったサイカ屋の食堂では、若い人も大勢来られました。

会長 いろいろな意味で、今の時代に合ったことが必要でしょうね。

大学の経営状況

司会 大学の経営状況はいかがでしょう。

理事長 現在大変厳しい状況で、積立金で何とかしのぎ、後期の授業料が入ってくれば一息付ける、そんな状況です。

学長 共用試験にかかる費用も一切補助はなく、さらに卒後研修が始まれば、研修医への給与もすべて大学が自前で賄わねばなりません。これは大変な出費です。

理事長 一人に毎月20万でも、1800万という試算が出ています。このままでは積立金もアツという間に無くなるかもしれません。

会長 大学として、何かそれを補う収益事業はお考えでしょうか。

理事長 安全確実なのは、学生、職員から収益を上げることですが、例えば現在使用されていない学生寮を復活させる。セキュリティは万全で、ご父兄にも安心していただけます。

会長 横須賀はご父兄から見ると、やはり少し危険なイメージがあるようで、セキュリティの面から、ほとんど女子の歯科大生だけが住んでいる小さなマンションなどもあるようです。もし寮が出来れば喜ばれるでしょう。

学長 問題は、最近の子はワンルームにしないと来ないので、改築費用が掛かってしまいます。それと料金をいくりに設定するか。

理事長 収益を上げるなら、お金を掛けてもきちんと改築しなければ、と考えています。

学長 どのくらいで回収出来るか、などの試算も必要です。

会長 女子学生が半分を占める現在、寮は良いアイデアだと思いますね。

理事長 また、病院を立て替えねばなりません。テニスコートの辺りに今より少し小さめに、そして有料駐車場を広く作る。歯科大学と短大の実習に主眼を置いた「研修センター」として建設し、

そのために必要なものを整備する。あまり大きなものは要りません。

司会 病院ということ言えば、横浜駅西口の横浜クリニックは、現在ウェイティングがかかる状況で、地域的なハンデや土曜診療などの違いはあるにせよ、横須賀の本院の方がやや元気がないように見えます。地元の開業医からの紹介率アップも含め、何か改善のための方策はお考えでしょうか。

学長 病院長ともよく相談して、目玉になる診療科を前面に打ち出したり、紹介されやすい状況を作り出すようには考えています。

司会 基礎も含めて、レベルアップが必要かと思えます。また、臨床に則した研究発表なども望まれますね。

理事長 他との交流が少ないからね。

学長 個人的に頑張っておられる方もあり、そうした人材が力を発揮しやすい環境を与えることも重要ですね。

会長 やはり教員の評価を、何らかの形でしなければならぬ時期に来ているのでしょうか。

理事長 それは必要ですし、やらなければいけません。

学長 評価の基準は、教育・研究のみならず学内の業務全般への貢献、対外的な評価なども含めた総合的なものがが必要です。

理事長 都立大学のように、助教授ではなく、準教授として、教授と同等の扱いにしているところもあります。

学長 独自に準教授を作った場合、その人材を生かすためには、講座制がネックになります。現在の講座制では研究費はすべて教授のところに集中しますから。

司会 外国のように、教授がスポンサーを取ってくるようなことも必要では？

理事長 教授の第4の仕事は、スポンサーを獲得して潤沢な研究費を確保し、教室員に分配することです。

司会 臨床に役立つ研究のため、積極的に企業との共同研究なども望まれます。

会長 同窓会でも、再生医療など注目される分野

での研究チームに所属する医局員に、ささやかながら奨学金を出しております。

学生教育と臨床

司会 学生の教育、臨床について、あらためていかがでしょうか。

理事長 教育はサービス業ですから、他と違うサービスが必要です。ただ教えるのではなく、メンタル的な指導、たとえばチューター制度などのシステム構築が必要です。学生と教員の間に隙間風が吹いていてはいけません。本学創立時、私たちは教室を開放し、学生とよく遊び、同じ釜の飯を食って、相互理解を深めました。その精神が今は少し教員側に欠けているのでは、と思います。

学長 不出来な学生でも一生懸命に接してゆけば、学生はついて来るものです。



理事長 入学させることは一つの契約であり、立派な歯科医師に教育する責務があります。必ずしも優秀な学生ばかりでなくとも、国家試験の合格率の高い学校はいくつもある。東京歯科大学では、学生が落ちるのは、学生側でなく「教え方」が悪い、という教育の伝統がありました。

会長 横浜市大の新学長ブルース・ストロナク氏も、まさに教育はサービスと喝破しておられます。女子学生が重い荷物を持っていたら、職員が手を貸す、なども含め、学生を宝物として遇する、と

いう姿勢です。

理事長 先日、事務職員の前でも、スタッフ・ディベロップメントを念頭に置いて、一体となって頑張る必要性を話しました。

学長 良い話として、受験生や親に聞くと、受験相談の窓口となった教務部などの職員の対応がとてもよかったので、という志望動機がかなりありました。

会長 我々の日常臨床でも、患者さんとの挨拶からすべては始まるわけで、こちらから積極的に話しかけることも立派なサービスだと思います。

理事長 まさにそれが基本です。短大の学長に就任した時、学生も職員も挨拶が出来ないのに驚きましたが、今ではかなり改善されているようです。やはり、そうしていこうというこちら側の姿勢が大切でしょう。よい学生とは、社会のニーズに則した学生であり、礼儀正しさ、社会常識、専門知識や技術、そして人柄、それらを総合的に教育するという事です。

会長 その意味で、歯科大学は教育の成果が「分かりやすい」環境にあると思います。たとえば国家試験合格率とか。

理事長 合格率を上げると同時に、落ちた学生をすぐフォローしてやるとか、学生と教員間の密なスキンシップが大切です。現在広告費に6000万かけていますが、どれ程効果があるか。最大の広告の媒体は、卒業生や保護者の口コミです。それが自然に出てくるようなサービスへの努力が、今、必要なのです。

司会 今回、国家試験合格率が悪かったことについて、父兄から教育への疑問が出たり、内部の共通試験でも成績が芳しくなく、こうしたことへの対策はございますか。

学長 本当は5年、6年になってからでは遅い。対策委員会を作って熱心な教員に協力してもらっていますが、時期的なものを考えると十分かどうか。

司会 合格率の不振は、学生側よりも、教員側に問題がある、とお考えでしょうか。

理事長 本来は誰のせいでもなく、それぞれに少しずつ問題があるはずですが。

司会 かつては集中実習のように、極端に言えば寝食を共にするようなグループ作りを強制するような科目もあり、それらのグループは結局卒業まで何らかの形で「一緒に頑張る」ことが出来、一見無駄のようで実は大切な「連帯感」に役立ってくれました。全般的にコミュニケーション作りが下手な世代にこそ、このような「半強制的なグループ作り」をさせて、カリキュラム上でも卒業まで互いに連帯感を持たせ、協力し合うことも重要ではないかと思いますが。

理事長 かつての学生と違い、現代の学生は互いに協力しようという意識が希薄です。なかなかひとつにまとまりません。

会長 家庭教育の責任でもありますね。

理事長 修身を学んでいない世代が、現在親や教育者の年齢になっており、「教え方」が分からない、という側面からさまざまな事件や問題が出てきています。

司会 OSCEなどは、患者さんとのコミュニケーションを教える場ですが、その担当教員の素養もまた問われますね。むしろ1年生の時からその心構えを教えた方がよいのではないのでしょうか。

理事長 先生も「教えながら学ぶ」という姿勢が肝要です。

学長 学んだことが本当に分かるためには、他人に教えることが役立ちます。自分の足りない部分に気づき、さらに自分で勉強するようになるからです。

理事長 OSCEは本来、先生方の教育なんです。

司会 共通試験の結果などは、全体の中でのランクが分かるので、教員の教え方の反省材料にもなりますね。

学長 そういう意識を全教員に徹底することも必要かも知れません。

同窓会、父母会との関係

司会 大学と同窓会との関係について、あらためてお話しただければ。

理事長 両者は言わばクルマの両輪で、同じ回転

数で協力しないとクルマは転覆します。我々も魅力ある大学造りのため努力しますので、同窓会もまた魅力あるものにしていただきたい。

学長 入会率が下がっていますね。やはり最初の時、卒業と同時に全員入会するシステムの方がよかったのでは。

会長 かつて両者の間に溝があり、それが尾を引いているようです。しかし、こうして協力関係が構築されている現在なら、たとえば学納金と一緒に同窓会費を納入していただく、などの方策はお願い出来れば有り難いのですが。

理事長 出来ると思います。協力しましょう。

会長 有り難うございます。同窓会側が何か出来ることを考えた時、たとえば学会の例会なども地方で開催する際、同窓会が積極的に協力させていただく。あるいはタイのコンケン大学との姉妹校の提携についても、同窓会としての準備をしているところです。

理事長 「その後」のことも必要です。交流を盛んにして、親密な関係構築にも努力し、長く継続していただきたい。



司会 高橋理事長は、積極的な施設の開放を謳っておられますが。

理事長 どんどん開放します。私が短大の学長になってから、短大の授業は開放しており、事前に連絡さえしておけば、どの授業も聴講出来ます。いずれ歯科大も、と考えています。

会長 父母会のことですが、同窓会との関係でギクシャクしたこともあったようですが、両者の協力は必須です。若干不透明な思惑が交錯している印象もあり、同じ同窓、同じ母校を愛する者として、純粋な志で結び付きたいと念願しております。

理事長 当然です。母校や学生への思いがあればこそ互いに協力出来るのであり、何か政治的な思惑などは極力排しなければなりません。

会長 また、現在同窓会の学術委員会で、有名なゲストを講演者として呼び出す場合、折角なら大学祭の中で共催しては、という案もあり、その節は大学の協力もお願いしたいと存じます。

司会 他に何かございますか。

会長 現在のカリキュラムの中に、医療保健制度に関する講義のようなものを組み込む、というのはいかがでしょうか。現在の社会保険の医療技官などを招いて、将来必要になる部分も少しレクチャーを受けるのも、大切かと思えます。

学長 考えています。

司会 医療人の心構えなどの講義も有り難いかと思います。また、去年は余り良からぬニュースが新聞等で出ましたが、今後の運営や改善の方策などございましたら。

理事長 文科省に報告書を提出し、さまざまな定款その他も改良し、役員の選定なども透明化して180度方針を転換しましたので、今後二度とあのようなことはないと考えております。大切な同窓の子弟を預かるためにも、居住まいを正し、より信頼されるよう努力しなければなりません。きわめて単純な話なのです。

学長 文科省は補助金カットを決めていると思います。それは覚悟しています。

会長 過去を十分教訓とし、さらに開かれたより良い大学にしていきたいと思えます。

理事長 改革のために十分力が発揮出来るよう、同窓会にも環境作りをお願いしたいですね。

司会 いろいろな意味で良いチャンスがきていると思います。「火中の栗」は相当熱そうですが、どうか頑張ってください。本日は有り難うございました。